

劇団芸優座は、「青少年にだからこそ最高の演劇を見せたい」という理念のもと、1972年に創立されて以来、全国のホール・会館をはじめ、文化庁の助成公演、公文協自主事業、教育委員会、小・中・高校の芸術鑑賞教室等での公演を、『演劇は、まず面白く、確かなテーマで観客と共に創造する』をモットーに、精力的に活動してきました。18歳から85歳まで各世代にわたる劇団員・研究生およそ60名が共に日夜研鑽に励み、今年は12作品のレパトリーを展開しています。



いっ きゅう
一休さん

脚本／平塚 仁郎 演出／村田 里絵

劇団 芸優座 公演



知ってますか？ ～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

「文化芸術による子供育成総合事業 —巡回公演事業—」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導または鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

第一幕 第一場 お寺の大広間

昔々、ある静かな山の中に安国寺というお寺がありました。そこでは、一休・珍念・周安という三人の小僧さんたちが修行に励んでおりました。特に一休さんは、「とんち」にかけては将軍様の耳にも届くほどの評判でした。

ある日のこと、村のお熊ばあさんが水飴を持って和尚さんを訪ねてきたのですが、いつもいたずらばかりしている小僧さんたちがもらったのは水飴ではなく、なんと・・・！すると、今度はその仕返しに、一休さんが「秘伝の化粧水」をお熊ばあさんの顔につけると、なんと・・・！そんな大騒ぎをしているさなか、お代官さまがやってきて、一休さんが将軍様にお褒めにあずかったという「とんち」を聞きたいと言い出します。そこで一休さんは、ほかの小僧さんたちと一緒に、芝居仕立てで披露することに・・・！

第二場 お寺の門前

またある日のこと、村の子供たちが、道でたおれていたおよしさんをつれてやってきました。およしさんは、足にちょっとした怪我をしたのがひどくなり、痛くて痛くて困っていたため、一休さんをお願い事があったのです。そこへ薬屋の久兵衛さんが血相を変えて飛んできて・・・およしさんの願いとは一体・・・そして、久兵衛さんは何のためにお寺へやってきたのでしょうか。



登場人物

- 一休さん
- 珍念さん
- 周安さん
- 和尚さま
- お熊ばあさん
- お代官さま
- 甚内さん
- およしさん
- 子守のあいちゃん
- 薬屋久兵衛さん
- 名主さま
- 母上
- 家来高光
- 村の子供たち



第二幕 第一場 里の夕景

三人の小僧さんたちは、修行の合間に村の子供たちとよく遊びます。今日はみんなでなぞなぞです。さて、誰がどんな問題をだすのかな？

第二場 お寺の大広間

修行に遊びに、お寺での毎日を元気に送っている一休さんでしたが、もう何年も母上とは会っていませんでした。そんなある日、その母上が突然訪ねてきたというではありませんか。さあ、困ったのは和尚さんや村の名主さまばかりではありません。というのも、実は一休さんの両親には複雑な事情があり、たとえお寺の中でも、一休さんと会うわけにはいかなかったのです。その上、そこへお代官さままでやってきて・・・さあ、一休さんと母上は、晴れて対面できるのでしょうか。

一休さん お掃除の唄

作詞：平塚仁郎
作曲：浅川喜雄



一休さん お掃除の唄

一、今朝も早起き、掃除日和だよ。お日さま ニニコニコ、お掃除日和だよ。あしゅのしゅのしゅのさつさのさつさ、あしゅのしゅのしゅのさつさのさつさ。

二、つらい、悲しい、日だつてあるさ。明るい、未来を、夢見て、頑張ろう。あしゅのしゅのしゅのさつさのさつさ、あしゅのしゅのしゅのさつさのさつさ。

とんとんとんちの、一休さん

とんとんとんちの、一休さん

作詞 平塚仁郎
作曲 浅川喜雄